

## アジア研究教育ユニット（世界展開力・特別経費）平成 27 年度教育研究報告書

<b>事業課題名</b>	実施事業名：京都市内小中学校における多様な児童・生徒に対する学習支援と学生によるフィリピン政府に対する事業結果のフィードバック
<b>代表者名</b>	特定准教授 安里和晃
<b>事業概要 (600 字程度)</b>	<p>本事業は授業＋学習支援ボランティア＋フィリピン研修の3つから構成される。フィリピン研修は前者2つの上に成り立っている。学習支援ボランティアはフィリピン系児童の通う小中学校に学生ボランティアを派遣し、日本語支援や学習支援を行う。そこでは様々な多文化の抱える問題があることを理解する。多文化の抱える教育の問題が単に学習の遅れにより生じているのではなく、貧困要因、移動要因、社会環境要因、家族要因、生物学的要因などさまざまな要因があることを理解する。こうした経験は学習支援を通じまとめられ、フィリピン政府在外フィリピン人委員会に対してフィードバックを行う。同委員会は日本向け移民に対する渡航前研修を実施しており、フィードバックは、これから来日する人々に重要な示唆を与えることになる。そこでは英語でのディスカッションやプレゼンテーションを実施し、フィリピン大学アジアセンターでも報告を行う。また相互の認識を深めるため、在外フィリピン人委員会職員を京都に招聘しボランティアの視察、フィリピン系移民の就労現場視察、ゲスト講師としてセミナーに参加してもらい、在外フィリピン人委員会渡航前研修に役立ててもらおう。こうした交流を通じて相互の情報交換と学術的教育的交流を深める。授業も実施し単位化する。</p>
<b>成果の概要 (800 字程度)</b>	<p>今年度は学習支援ボランティア活動、フィリピン政府職員受け入れ、NGO 団体受け入れ、フィリピン研修の実施に加え、浜松市からのボランティア団体との交流事業、セミナーの実施を行うなど、より多くのプログラムが実施された。今年度は13名が2つの小中学校に分かれボランティア活動に従事した。各学校の教員の指導に従い日本語教育や強化学習支援を実施し、その成果は、毎回ノートをつけてもらいメールで共有した。また授業においても経験したことを共有した。こうした活動を通じ、移民児童の日本社会の適応、就学上の困難を実感してもらうことで、多文化の重みを感じ学ぶことができた。さらに、5月にはフィリピンに居住する日本人の子（JFC）の支援団体である DAWN の来日を支援し、演劇の公演会を文学研究科新館にて実施した。ここでは DAWN による支援活動、日本に居住する母子の生活に関するレクチャ、さらには演劇後 JFC に対するインタビューを通じ、多文化家族の問題について理解を深めた。特に、JFC のもつ会ったことのない父親や見たことのない日本に対する複雑な思いを垣間見た。12月には国際関係ボランティア団体との交流会を浜松市市役所やボランティア学生と実施し、官学連携を今後も継続することを確認した。1月より3回にわたり、移民の日本適応に関する理解を深めるためセミナーを企画、実施した。招聘者は在外フィリピン人委員会職員、JCF 母子、福祉施設関係者である。在外フィリピン人委員会の招聘は3度目だが、訪問地として NGO、京都大学での講演、小中学校見学、名古屋、東京の支援組織、太田市におけるフィリピンパブや教会組織である。フィリピン研修は2月に実施した。今回は7名の応募から、5名を採択し実施した。フィリピン政府在外フィリピン人委員会との交流経験から、多くの調整を担ってもらい、福祉施設、新日系人 JFC 支援 NGO、人身売買や虐待被害者のシェルター訪問、興業ビザに詳しい専門家に対する聞き取り、フィリピン大学アジアセンター Clemente 教授の学生との交流、カナダ大使館やアジア開発銀行訪問、さらには日本渡航の結婚移民とのディスカッション、日本における知見の共有などを政府職員の前で報告するなど、多くのプログラムを実施することができた。こうした一連の活動は、単に国際交流にとどまるものではなく、国際問題としての移民へのコミット面とである同時に、京都市内における地域問題への取り組みでもある。さらにはこうした経験をフィリピン政府に伝えるために英語でプレゼンを実施するという国際的な双方向的な取り組みとして、大きな広がりをもつものであった。3月には在外フィリピン人委員会の職員の視察協力の実施を行ったほか、教員と学生が京都市教育委員会で報告するなどの取り組みが行われた。</p>